

# かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗



オリエンタル白石株式会社 東京支店施工・技術部  
土木工事チーム 作業所長

上地 良秀

1988(昭和63)年、現在のオリエンタル白石株式会社に入社。  
以来、トンネル(開削)工事や堤防工事等を経験し、現在に至る。



## 余裕がないときこそ、情報伝達は正確に

入社して3年目の造成工事に携わっていた頃の出来事です。その当時、私は測量や工事の写真撮影を担当しており、測量は作業員も含めた3人で進めていました。

毎日が測量や写真撮影に追われる日々でした。また、施工範囲が広い現場だったために、つねに次の測量のことで頭がいっぱいの状態でした。

失敗をしたのは、管を布設する前の丁張りを設置したときのことです。通常であれば、測量を行い丁張りに管の高さや位置などを表記し、図面などを用いて作業員の方に説明します。ところが、早く次の作業場所の測量に行かないと後の工程に影響がでてしまうと焦っていた私は、作業員の方に丁張りに表記すべき情報を口頭だけで伝え、丁張りに表記しないで急いで次の場所へと移動しました。

その日の作業がひと段落し、管の布設状況を確認したところ、何かおかしいなと感じました。そこで管を測定してみると、下水管と雨水管の高さを間違えたまま布設していることに気が付いたのです。「やってしまった!」と思い、上司に報告してすぐに管の据え直しを行いました。気が付いたのが早かったために工程の遅れや損害も最小限で済みました。

この失敗から、現場を正しく順調に推移させるためには「正確に情報を伝える」ということが重要だと学びました。以来、何かを人に伝えるときには適当に説明するのではなく、なるべく図面などを用いて「具体的に、分かりやすく」を心掛けるようになりました。

今でもこのことをつねに意識しています。例えば、初めて行う作業がある日は、その作業に携わる人全員に指示が伝わるように周知会を行うようにしています。情報の又聞きも間違いにつながる場合があるので、具体的に伝えることを、現場では心掛けています。

また、万が一トラブルが起きてしまったときは、どのような事が起こったのかを正確に伝えることが大事だと、部下に指導しています。情報が少し違うだけで、取るべき対応策も異なってきます。情報の伝達というものがとても重要になることを、よく理解してほしいと思っています。

若いときは失敗することが多々あると思います。たとえ失敗しても、途中であきらめたりせず、それを糧に成長してほしいと思います。我々の仕事は物づくりですから、形になっていく喜びや工事を終えた時の達成感をたくさん味わってほしいですね。